

この9月、マザーテレサが帰天後、わずか19年で「列聖」される

主任司祭 ベナンチオ 水浦 征夫

マザーテレサの列聖式が9月に行われる。マザーテレサが帰天されたのは1997年9月5日。死後、わずか19年後に「列聖」というのは、異例である。高山右近が福者にあげられるまで、死後400年かかったことを考えると、マザーテレサの列聖は異常に早いことがわかる。現代は、マザーテレサのような聖人を必要としているのかもしれない。

マザーテレサは、インドのコルタカ（旧カルカッタ）で最期を看取る「死を待つ人々の家」を作り、世界各地を廻り、誰にも顧みられない人々の世話をする仕事を始めた。マザーに共鳴する女性たちが集まり、「神の愛の宣教者会」という修道会になった。いま、マザーテレサの後を継ぐシスターたちは世界で4000人以上働いている。マザーテレサは、日本にも3度来られた。最初の来日は、教皇ヨハネ・パウロ二世の訪日と同じ1981年。そのとき、マザーテレサは、東京にも多くのホームレスがいることに触れ、日本は決して富める国ではないと、話された。2度目の来日は1982年。4月25日には、カトリック仁川教会近くの阪神競馬場で開かれた（宝塚青年商工会議所主催）「愛と平和の集い」で講演された。3度目の来日は1984年。この年の11月23日に広島市を訪れ、「平和の集い」に出席されている。マザーテレサの来日を機に、東京と大阪に

「神の愛の宣教者会」が活動を始めている。

カトリックの「福者」調査には、死後、5年を経なければならない、との規定がある。しかし、教皇ヨハネ・パウロ2世は、マザーテレサの場合は例外として、死後、直ちに列福調査を認めた。マザーテレサの取り次ぎに依る奇跡が起きたのは、1998年である。非カトリックの34歳のインド人女性が奇跡的に病気を癒された。モニカ・ベスラさんは、胃に腫瘍ができ、日に日に大きくなり、妊娠したようなお腹になった。すぐに手術をしなければ危ない、と思われたが、貧血のため手術は不可能だった。モニカさんは、マザーテレサが亡くなった翌年の9月6日、コルカタの「死を待つ人々の家」に連れて行ってほしいと願った。モニカさんは話している。「礼拝堂に入ると、マザーテレサの写真が目に入りました。そのとき、あたかも一条の光が私に向かって飛び出してくるよう感じました。シスターが祈ってくれ、私は眠りにつきました。朝、目が覚めると腫瘍はなくなっていました」

さらに2015年12月17日、脳腫瘍を患い、危篤状態のブラジル人男性が、マザーテレサの取り次ぎによって回復した奇跡が、教皇フランシスコに依って承認された。

現代でも奇跡は起こり得る。聖人の取り次ぎを祈りましょう。